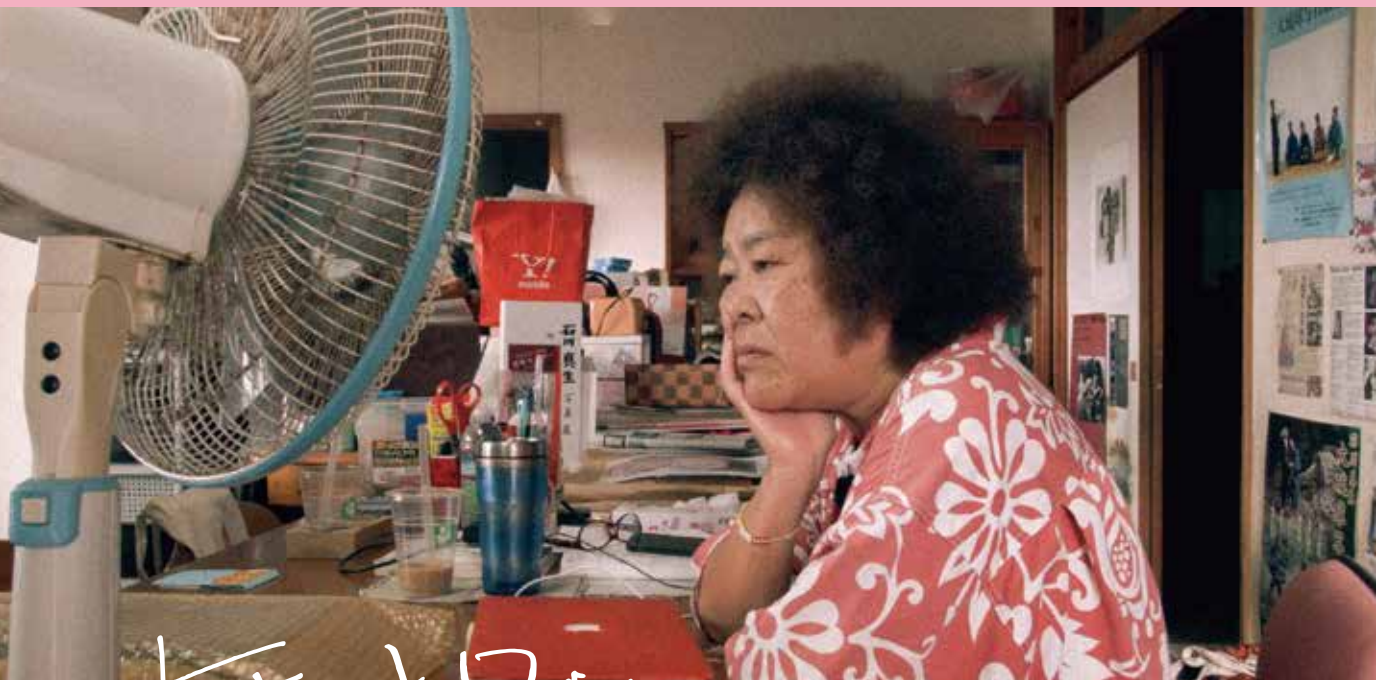


# 醜くも美しい 人の一生、 私は人間が好きだ。

1971年11月10日、米軍基地を残したまま、日本復帰を取り決めた沖縄返還協定を巡り、沖縄の世論は過熱していた。労働者と、機動隊の衝突は、警察官一人が亡くなる事件に発展。当時、10代だった石川は、この現場を目撃した。同じ沖縄の人間同士の衝突がきっかけとなり、石川は写真家の道を志した。1975年、米兵を撮るために、石川はコザ・照屋の黒人向けのバーで働き始める。バーで働く女性たちや、黒人たちと時間を過ごしながら、日記をつけるように、石川は写真を撮り続けた。

当時の生活が収められた3冊の写真集「熱き日々 in キャンプハンセン!!」(1982)、「熱き日々 in オキナワ」(2013)、「赤花 アカバナー 沖縄の女」(2017)を手に、およそ半世紀が経った今、当時の記憶を回想する石川。石川自身が「最も大事にしている写真」と語る作品、そこに納められた人々との物語が語られていく。写真家、石川真生による自由な生き方を肯定する「人間賛歌」が誕生した。



## オキナワより 愛を込めて

FROM OKINAWA WITH LOVE

監督：砂入博史 出演：石川真生

## 愛を込めて

〔併映作品〕

「オキナワ・フィラデルフィア」

2022 / 56分 / 日本・アメリカ / 日本語・英語

監督：砂入博史



土門拳賞を受賞した写真家、  
石川真生の人間賛歌

石川真生（写真家）

1953年、沖縄県大宜味村生まれ。

1971年、11・10ゼネストを機に、写真家になることを

決意する。1974年、WORKSHOP「写真学校」東松照明

教室」で学ぶ。1975年、黒人兵向けのバーで働きながら、

黒人兵とバーで働く女性たちを撮り始める。半世紀に渡り、

沖縄を拠点に制作活動を続け、沖縄に関係する人物を

中心に、人々と時間を共にしながら写真を撮り続けている。

2011年、『FENCES, OKINAWA』でさがみはら写真賞を

受賞。2014年から沖縄の歴史を再現した創作写真

シリーズ「大琉球写真絵巻」を開催。

2019年に日本写真協会賞作家賞、2024年には

土門拳賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

東京都写真美術館ホール

TEL：03-3280-0099（代表）

URL：https://www.topmuseum.jp

注意事項：※全席指定 / 各回定員入替制 / 立ち見不可 / 事前予約不可



住所：〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
アクセス：JR 恵比寿駅東口改札より徒歩約7分  
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分